



金属加工・機械分野で人と人をつなぐ技術を守る

株式会社ミツワ製作所 京都府木津川市山城町

株式会社ミツワ製作所は、金属に関しては小さなものから大きなものまで、「断らない。とにかく作る」を創業以来の経営理念に掲げ、社長1人による起業から、現在は、設計、部品加工、組み上げ、そして塗装まで一貫した生産体制を構築し、製缶加工、水処理設備、プラント設備、省力機械等の多様な分野でチャレンジを続けている。

同社の問題解決力と提案力、すなわち取引先の要求・要請を理解し、設計図を起こし製品に作り上げるといった取引先企業との摺り合わせの能力、人と人をつなぐ技術の高さは、まさに日本のものづくりの原点であり、そこには、大手企業の下請けではなくパートナーとしての姿がある。

会社概要



会社名：株式会社ミツワ製作所
玉水事業所：京都府綴喜郡井手町
井手川久保 7-2
電話：0774-82-7678 (代)
FAX：0774-82-5493
創業：1978 (昭和 53) 年 3 月
設立：1988 (昭和 63) 年 1 月
代表者：取締役社長 原田 光夫
常務取締役 原田 泰幸
資本金：1,000 万円 従業員：46 名
事業内容：製缶、プラント制作、機械加工、板金、省力機械設計制作、産業機械メンテナンス
URL：<http://mitsuwa-factory.co.jp/>



本店 (上) と本社機能を有する玉水事業所 (下)



社長1人の起業から社内一貫生産体制の構築

株式会社ミツワ製作所は、昭和 53 年、当時電気部品工場に勤務していた原田光夫社長が原田鉄工として起業。当時 26 歳、わずか 30 万円を元手に、手作業による部品削りからのスタートであった。

また、金属に関するものなら何でもやってやろうと、溶接技術も独学で習得し、建築金物の製造も手掛け、建築工事業の認可も受けた。「断らない。とにかく作る」を創業以来の経営理念に掲げているが、それは、常に新しい技術にチャレンジし向上を図るという覚悟の表れである。

3 年ほどは社長1人で仕事をこなすなど、創業後の 10 数年間は超多忙な日々が続いたが、これを支えたのが家族全員の理解であった。「家族の団欒といえるものは、完成品を皆の手を借りて納めに行く車中だった」と社長は当時を語る。

やがて大手電池メーカーの製缶加工の孫請けの仕事に巡り合い、問題解決・提案型の取引を続ける中で、現在では同種部材の納入企業としてはトップシェアの座を獲得するに至っている。

また、大手水処理企業のポンプ製造も受注に至り、現在では同様に、納入企業中トップの納入実績を持つまでに発展し、製缶加工と合わせて同社の収益の柱に成長した。

そして、平成 13 年には、第二工場を増設し、樹脂フィルム加工機メーカーの業務を引き継ぐこととなり、一層事業の幅が広がった。

機械加工、レーザー加工、溶接といった多様な金属加工技術を基に、その他にも、オーダーメイドの機械の受注も相次いでおり、さらに、官公需・民需の水処理プラントの製作、また、工場の生産ラインの製作まで対応している。

大手メーカーから頼りにされるその信頼は、「断らない。とにかく作る」の経営理念の下で、取引先のニーズに対応した問題解決・提案力を磨きあげ、また、設計から部品加工、組み上げ、そして塗装まで一貫した生産能力を築き、安定した

品質保証体制の構築に取り組んできた賜物である。

積極的な設備投資と人材育成

また、他社に先んじる高い技術力を支えるため、設備投資にも積極的である。平成3年の法人化の際には、ドイツ製のレーザー金属加工機を国内で初めて導入した。当時はまだ世界に10台しかないという機械で、それは、他社にまねのできない最先端の能力をアピールすることでもあった。

そして次は平成10年代半ばの5面加工マシンニングセンターの導入である。精密・複雑な加工が可能である上に省力化も進展することになった。

「大型新鋭機導入は、不思議と不景気の時期ばかりであった」と社長は振り返る。しかし、その分、機械は安く買えたとし、不況脱出のスタートを他社に先駆けて切れたといえる。リスクも高いが、長年にわたり築いてきた大手企業との安定的な取引が収益の中心にあることが大きい。

また、高技術力のもう一つの柱である人材育成活動も活発で、定例的に工程ごとに発表を行う勉強会も開催している。従業員自らが発表を行うことで、工程間の理解が進むと同時に、技術を説明する力を養うことができ、競争力の原点である摺り合わせ能力の向上には欠かせない。

営業面では、技術力を売る提案・問題解決型の企業であるため、社長と長男の原田泰幸常務取締役を中心とした「営業技術部」が設置されている。プロの技術者同士による仕様の摺り合わせが受注の命であり、間に営業マンを挟んではスピードが遅れてしまうという考えである。

研究開発の積極化で自社ブランド製品の展開と拡大

常務が中心となる製袋機などのフィルム加工機分野は、他社から引き継いだものだが、自社ブランド製品の開発を積極化する転機となった。

IT関連などの高機能フィルムの加工機も手掛けるようになり、顧客のニーズを取り入れて開発を行う中で、加工過程で生じる切りくずの再生への取り組みを開始した。環境保護の面もあるが、高機能フィルムに使用される樹脂原料は、最先端のハイテク素材であり、切りくずといえどもおろそかにできないというニーズもあった。



新鋭のレーザープレス機（上）と5面加工門形マシンニングセンター（左）



「京都中小企業優秀技術賞」を受賞した「MITSUWA リサイクラー」

そこで、「MITSUWA リサイクラー」の開発に至ったが、この製品は、裁断加工途中に熱を加えず材質の変化を極力抑え、再生率の向上を図ろうとするもので、平成17年、「京都中小企業優秀技術賞」を受賞した。

また、樹脂の超音波溶着機械「ミツワ・スーパーソニックウェルダ」の開発にあたっては、平成19年、京都府が先端的な中小企業の研究開発を支援する「中小企業応援条例」の認定を受けた。

人と人をつなぐ技術を守る

新製品開発の他、今後の方向性として、近年ニーズが高まっている水処理施設等の設備メンテナンスの分野にも注力しており、ここでは、創業当時に建築事業の認可を取得したことが生きている。

同社のこれまでの発展においては、幅広いニーズにチャレンジに応えるとともに、人と人をつなぐ技術を守り、オンリーワンの技術を創造することで取引のネットワークを拡大してきた。

そして、将来に向けても、資源再生や水処理、新電池といった現在注目される成長分野において、さらに技術を磨きチャレンジが続く。

（山城満、井阪英夫）